

かんがい用水による防除の省力化とマルチ・剪定・摘果による品質向上 ～東 晃司氏～

経営体の概要

農業従事当初：平成5年
基幹作物：うめ、スターチス（ハウス）
経営面積：1.0ha、ハウス3棟

現在：令和5年
基幹作物：うめ、温州みかん
経営面積：うめ1.0ha、温州みかん85a

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【事業実施前】

- 天水や谷水等の不安定な水源にたよっていた。
- 畑地かんがい施設が未整備で、農業の近代化が図れなかった。



島ノ瀬ダム工事前



辺川頭首工改修前

【事業実施後】

- 前歴事業（昭和48年度～平成7年度）で、島ノ瀬ダム等の新設、辺川頭首工の改修で、水源を確保。関連事業等において支線用水路の敷設やスプリンクラーを設置し、畑地への散水や防除等に使用でき省力化が図られた。
- 本事業で老朽化した施設の改修等を実施することで引き続き農業用水を安定供給。

営農改善、経営転換等のポイント

①省力化

国営土地改良事業等により農業用水が供給されたことで、うめ、温州みかんともにスプリンクラーによる防除が可能となり、省力化が図られている。3,000リットルの防除水を人力で散布する場合3人で半日必要だったが、スプリンクラーだと1人で1時間で済むようになった。

また、温州みかんについては、モノラックが導入されており、山で収穫した温州みかんの運搬作業の省力化に寄与している。



スプリンクラー

②栽培技術の確立

温州みかんについては、樹下に白マルチを敷くことで、特に極早生品種の色づきがよく糖度も高くなり、品質向上に寄与。

温州みかんについては、その特性上、隔年で収量差がでるが、剪定・摘果技術の向上により、収量の平準化による安定出荷に繋がっている。



白マルチと摘果作業

③流通・販売の工夫

温州みかんの出荷については、地区近郊の市場では、みかんの産地が競合することから、みかん生産のない地域のスーパーと直接取引をして収益増加を図っている。また、取り決めた量を毎年コンスタントに出荷していることから取引先との信頼度が増し、更なる取引量の増加を求められている。

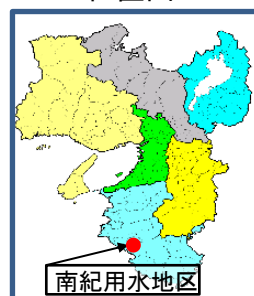


モノラック

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：和歌山県田辺市及びみなべ町
受益面積：1,790ha
事業期間：昭和48年～平成7年
事業目的：用水改良、畑かん 等
主要工事：ダム1箇所、頭首工改修1箇所、
用水路L=27.9km、揚水機改修4箇所

位置図



<問い合わせ先>

近畿農政局
農村振興部農地整備課
電話：075-451-9161
(内線2528)

(令和6年度調査時点)